

定 一 部 金 武 銭  
 一 月 五 銭  
 三 月 十 五 銭  
 六 月 三 十 銭  
 一 年 六 十 銭  
 廣 告 費 另 議  
 行 休 日 日 曜 大 祭  
 福 島 縣 石 城 郡 平 町 長 橋 町 三 五  
 發 行 所 常 務 每 日 新 報 社  
 電 話 六 三 〇 番

刊 夕 日 六 十 月 三

常 務 每 日 新 報  
 讀 經 の 心 も ち  
 失 名 氏

(二)

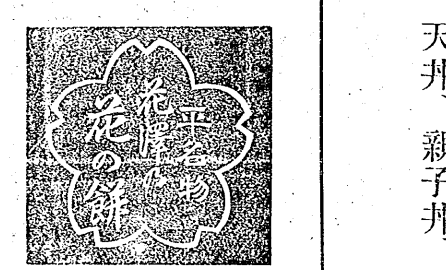
これまで六十一年の間といふ  
 もり、父は朝晩に——少  
 くとも拜んでゐる間だけ、  
 讀經してゐる間だけは神様  
 と佛様の國に世界に遊んで  
 來たのである。——それが  
 急に服することによつて、  
 しばらく入門を拒まれたか  
 たちとなつた。  
 佛の國に遊び、佛に抱かれ  
 佛と語る——それはたと  
 へ十分間でも廿分間でも、  
 たしかに、この上ない愉快  
 なことに相違ない。

佛前の讀經の心もち、信  
 仰の境地の向上するにつれ  
 て、その心持も移り進む場  
 合があると考へられる。――  
 第一は、經文の意味を知る  
 といふことである。讀書百  
 遍、意おのづから通ずとい  
 ふことがある。難解な經文  
 の意味も、朝晩に、同じこ  
 とを繰り返して讀んでわれ  
 ば、いつかはなほに薄紙を  
 剥ぐやうに諒解されて來る  
 意味が分るうちに、時折り  
 胸奥の琴線に何かしら觸る  
 うものがあるを覺ゆるやう  
 になる。それは筆にも言葉  
 にも言ひあらはせぬが、三  
 千年前、釋尊の持たれた心  
 境と靈犀一點のおのづから

通するものではなからうか  
 第二は、讀經によつて何等  
 かの功德を求むること――  
 欲求すること所望すること  
 である。佛様にお願ひする  
 ことによつて、病氣が治り  
 たい、出世がしたい、金が  
 儲かりたい、災難から免れ  
 たい。――さうしたことを  
 祈る意味で讀經をする。む  
 しろこの場合は讀經を捧げ  
 て代償を求めてゐるのであ  
 る。一種の取引行為である  
 世人の多くはこの邊の心境  
 を往來してゐる。



小 店 員 募 集  
 小 店 員 數 名 至 急 入  
 用 家 族 的 優 遇 ス 詳  
 細 面 談  
 平 町 一 丁 日  
 和 久 井 屋  
 電 話 四 〇 六 番



あ ん 餅 で  
 東 北 一 一 一  
 鐵 道 省 御 用 鋪  
 花 澤 四 良 司 菓 子 店  
 平 町 長 橋 町

品 質 優 良 合 衆 量 豐  
 所 米 精 肉 関  
 番 〇 六 一 〇 呼 請 示 町 橋 平 町 中  
 マ シ タ イ 運 配 速 早 ズ ラ ハ 拘 ニ 少 多 ハ 文 注 御  
 ス マ 願 シ 試 御 ハ 度 一 非 是

第 二 病 室  
 高 久 病 院  
 院 長 醫 學 士 高 久 忠  
 副 院 長 新 潟 醫 學 士 赤 羽 清  
 藥 局 長 藥 劑 師 佐 竹 菊 雄  
 平 町 田 町 電 話 五 一 三 番

公 債 賣 買  
 大 正 生 命 保 險 株 式 會 社  
 平 代 理 店  
 多 田 井 質 店  
 平 町 大 工 町

山 古 印 醬 油

精 良 味 美 經 濟

元 造 齋 屋 山 崎 合 名 會 社  
 電 話 一 〇 七 番  
 電 話 二 〇 七 番

株 式 賣 買  
 一 入 買 價 高 話 電 一  
 諸 株 式 の 賣 買 に 應 じ ます  
 取 引 は 迅 速 を 第 一 と し ます  
 取 扱 は 親 切 を 旨 と し ます  
 川 添 房 次 郎 當 店 に 關 係 な し  
 株 式 現 物 賣 買 「電 略 司」  
 駒 場 四 郎 商 店  
 平 町 田 町 六 八 電 話 四 六 五 番

生 徒 募 集  
 願 書 三 月 三 十 一 日 限 り  
 詳 細 ハ 本 校 宛 學 則 請 求  
 福 島 縣 平 町  
 私 立 藤 田 裁 縫 女 學 校

お 出 の 節 御 特 參 下 さ い  
 ご ん な 催 し で せ う  
 お 遊 び に 御 出 下 下 さ い  
 特 遊 券  
 行 効 期 間 三 月 三 十 日 迄  
 壹 枚 で お 幾 人 様 に も 共 用 で き ます  
 平 町 松 雲 園 池 端  
 小 芝 居 館  
 電 話 三 三 六 番

内 科 小 兒 科 花 柳 病 科 (需 應 院 入)  
 平 町 紺 屋 町  
 藤 沼 醫 院  
 電 話 圓 五 〇 七 番

# 『大懸賞』の者

昨晚有聲座興業中の時間をかりて「ライオンマン」の懸賞正解者五百十五名の内から四十名の受賞者を選ぶべく第一回の抽籤を執行せる結果左記の諸氏が當選した

- 一等賞 (柱時計) 新田町湖月内 國本せい
- 同 (鏡台) 南町 織田たか子
- 二等賞 (學生帽及び帝キネ攝報) 搔樋小路 酒井憲三
- 同 (同上) 南町 木暮ユキ子
- 三等賞 (ヒヤク付大バケツ) 仲間町 佐藤種三郎
- 同 (同上) 紺屋町 中村屋商店
- 同 (同上) 同 上
- 四等 (白銀町福田武、内郷村小島古川武男(五等)田町鈴木セツ子南川織田寅雄(六等)白銀町天田常正、長橋町相田米四郎(七等)渡邊村泉田小野ヤイ、田町神山美枝(八等)五丁目清野ミエ子、材木町三瓶松代(九等)双葉郡廣野村北郷武藏、新川町丹野シゲ(十等)南町高野一夫、白銀町齊藤千賀枝(十一等)胡摩澤細川兼次郎、仲間町佐藤二郎、製電所坂本善次、舊城跡青木清四丁目阿部清太郎、田町駒場ノブ、南白銀町松永政治、田町高野秀雄、南白銀町輕部嘉久、内郷村小島小峯正紀、白銀町加藤富雄、二丁目緑川清徳、白銀町草野丈夫、大工町鈴木繁、田町吉田星兒、二丁目鈴木好志美津、田町引地キノ、長橋町鈴木秀雄、三丁目鈴木三郎、尚ほ引續き左記の如く第四回の抽籤を執行し残る八十名の受賞者が何人であるかを決定する

## 子弟の情誼濃やかに

### 壽像燦爛として輝く

#### 風教上の好模範

町會議員阿部政右工門氏の嚴父阿部乙三氏の薫陶を受けた子弟四名が其恩に報ゆべき一端として彫刻界に名ある赤堀信平氏に囑し

阿部翁の座像を 鑄造し是れを贈呈すべきは既記の如く昨日午前十時より縣社子銀



家庭庭欄

たれば、そ足下に迫るものであつて、足下の如く徒らに牽強附會の説を立てて世人を惑す者ではない。考へても見給へ、不當支出、非らざる明らかな事實に對し伏見町長が、不當支出だと陳謝し、且つ同僚議員が其意味で足下の諒解を求むるの道理がなからうではないか、此點は他の議員諸君が總べてよく熟知する等であるから水掛論の必要はない、次ぎに公園の辨天池浸漑工事、是れは僕が所論とは何等関連せざる別問題であつて、斯かる事柄を殊更に足下が辯じ立てた事は一種の賣名の脱線行動と認め、應酬の責任を僕は感じない、同上事に就いては他

異なる所なかりき生等の今日ある一翁の賜といふべし、又翁は町會議員に舉げらるること數次全く私利我慾を離れ町の一身を賭するの概ありき、往年電燈及水道の必要を説きたる等以てその卓識の一端を窺ふべし此の如く翁は町、先覺者たりしなり今や翁六十有五歳而も觀あり、嫡男政右工門氏又翁の意を嗣ぎ入りては業務の擴張を計り出で、町會議員たり、阿部家の隆昌將、旭日昇天の觀あり、茲、我等子弟相計り東都彫刻界の大家赤堀信平先生に鑄像の製作を依頼し今日その除幕式を行ひこれを暗り謝恩の微意を表し併て阿部家の益々繁榮ならんことを祈る會員一同に代り謹んで一言述べて謝恩の意を表す、

天満宮の鳥居 平町松ヶ岡公園の南崖なる北野天満宮の鳥居腐朽せる爲め左記の諸氏發起となり新たに奉獻すべく寄附募集中である

## 奮闘を祈る

今晚の常警毎日の「再び野崎君に呈す」の末尾の藝者云々の條りを讀んで、あなたの崇高なる御精神に多大の敬意を拂ひました、くだらぬ人間共のくだらぬ小いたづらに眼を呉れず直進する、勇氣とくだらぬ小いたづらを許してやうて問題にされなかつたトシレットな心根と多大の敬意を拂ひました。今後、あの勇氣と寛大な心持を續けて下さい。然れば卑劣な小いたづらの如きは自然と消滅せしませう、たゞに身体を丈夫にして如何なる犠牲も厭はず大瀧問題の爲めに奮闘致しませう

## 再び野崎君に呈す

### 川崎文治

(第六)決算書採決の消息に關し足下は僕に對して「貴下は其衝に當つたのではないから事情を知る由もないだらう」と云ふ、足下の言を

籍るるなれば司法官が犯罪者を斷罪するに當り、犯罪行為を目撃しない以上、決定意見を附する能はず云ふのと同様で、意味を爲さぬ言である、身不肖なりと雖も報導機關にたづさはる一員として前後の事情をよく精査し幾多の材料を握つ

日僕の意見を改めて披露する機會もあらうと思ふ、(第七)町長交際費に就き足下は、縣廳の膝元の福島や四通發達の郡山と平町を同ふして語る事は出来ないと云ふ、其様な事は足下に聞く迄もない、だからこそ、セメテ郡山の半額位の程度は支出してもよかりさうなもの云ふのだ。町長の年末慰勞金は足下も云ふ如く

贈呈に賛成した一人であるに拘らず今更ら兎や角と御詫言あるはケチな了見でないか、また役場吏員の増俸は君達二三の者の意見に依つて實現した様な親切ごかした有難い次第を並べて居るから笑はせる、馬鹿も休み休み云つたがよからう是れは青沼君や大森君其他の尻馬に君達二三が乗つた丈の事で御座らうがな

讀者諸君の御家庭、この四月から尋常一年へ入學なさる坊ちゃん嬢ちゃんがお祝ひの微意を表する爲めに四月分の本紙を無代で進呈致します故どうぞ本月末に配達係が集金に参上致しました際御遠慮なくお知らせを願ひます

## 新入學のつ持をんさ子

讀者諸君の御家庭、この四月から尋常一年へ入學なさる坊ちゃん嬢ちゃんがお祝ひの微意を表する爲めに四月分の本紙を無代で進呈致します故どうぞ本月末に配達係が集金に参上致しました際御遠慮なくお知らせを願ひます